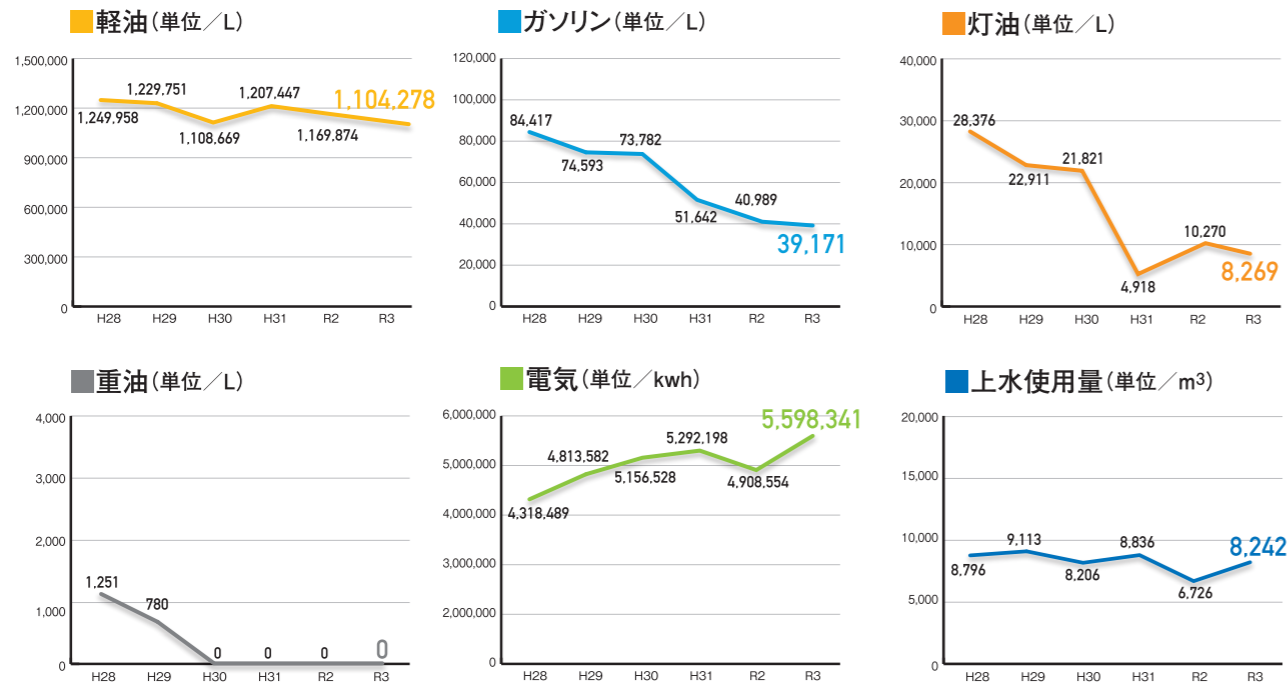
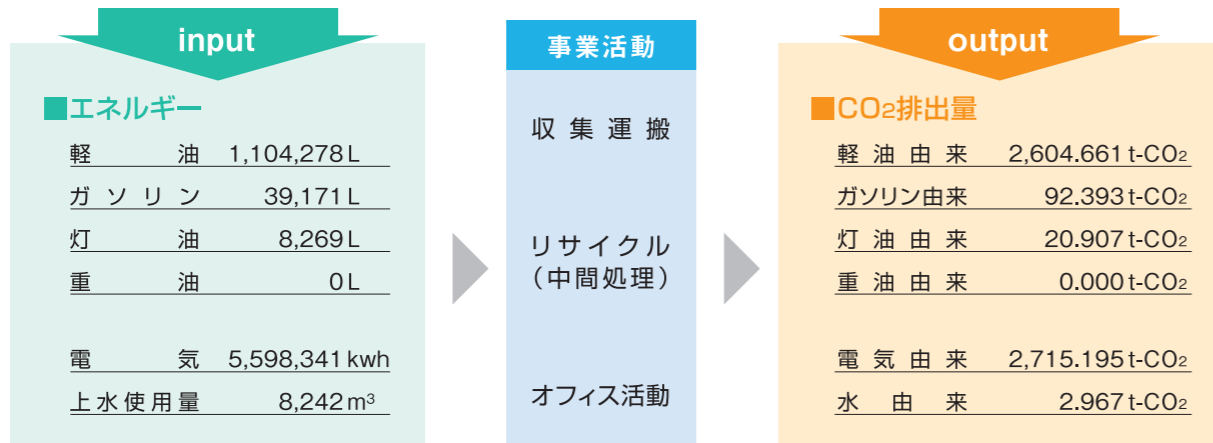


マテリアルバランス

パブリック・グループの事業活動である収集運搬・中間処理およびオフィス等で使用した資源のinputと環境への排出量outputを表しています。

集計期間 ■燃料使用量/令和3年4月~令和4年3月までの集計
 ■電気使用量/令和3年4月~令和4年3月までの集計
 ■水道使用量/令和3年4月~令和4年3月までの集計



※集計方法の変更により一部数字が変動しております。

オフィスでの環境活動

オフィスでもできる環境取り組みとして、電力の削減を課題として事務所内蛍光灯をLEDにすることで大幅な電力削減が見込めます。その他にも全事業所の蛍光灯にプルスイッチを設置しました。また、TV会議システムを導入することにより、会議等による事業所間の移動を減らしCO₂の削減とコストダウンにも成功しました。そのほかオフィス内では、ごみの12分類別や緑化活動にも取り組んでおります。

産業廃棄物収集運搬(特管)と処分量取扱量

令和3年4月1日~令和4年3月31日まで
 ※代表的な施設のみの掲載しております。

本社工場		高松工場					
固形燃料化施設 4,509t	選別施設 11,321t	選別施設 4,266t	蛍光灯破碎施設 25t				
三豊工場		山本処分場					
木くず破碎施設 5,694t	ふるい施設	がれき類破碎施設 4,920t	安定型埋立処分場 0,000t				
丸亀工場		三本松工場		松山工場		四国中央工場	
溶融施設 32t	破碎施設 1,438t	電池選別施設 2.3t	圧縮梱包施設 99t	切断施設 2,606t			
丸亀リサイクルプラザ(グループ会社)							
満濃工場		三豊オーガニックステーション					
堆肥化施設 3,104t	堆肥化施設 5,006t	発酵乾燥施設 89t	選別施設 2,467t				

産廃・特管運搬量 **47,791t** | 産廃処分量 **41,037t**

SDGs 達成へ向けた取組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 株式会社 パブリックSDGs宣言



2021年
4月より
SDGs宣言

2021年の4月より、パブリックにおきましてSDGs宣言をいたしました。昨今、様々なところでSDGsという言葉を目にするようになりましたが、弊社におきましても、山積する環境問題への対応や地域社会への貢献、そして循環型社会のいち早い実現を目指すために宣言をすることとなりました。社員一同、目標を達成し続けられるよう努力してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS SDGsとは
2015年に国連サミットにおいて、「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ (原文:Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development)」が採択され、17のゴール(目標)と169のターゲットから成る「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」が策定されました。2030年までの国際社会全体の開発目標で「誰一人取り残さない、社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組む」ことを目標としています。
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です。 [総務省ホームページより抜粋]



みとよ
SDGs推進
パートナー
登録証

SDGs	テーマ	取組事項
4, 11, 12, 17	SDGsの普及・実践	工場見学や職場体験の受け入れを通じて、地域社会にSDGsの学びの場を提供します。地域社会とともにSDGsを実践し、地域未来牽引企業としての役割を果たします。
7, 12, 13, 14, 15	「脱・減炭素」 ～地域・お客様へ～	リサイクルの推進を実施し、化石燃料等の代替燃料(RPF)製造に努めます。総合エネルギー効率の向上と化石燃料削減によるCO ₂ 削減にて「脱・減炭素」を支援いたします。
7, 11, 12	「脱・減炭素」 ～会社として～	車両について、ハイブリッド車等の増車・導入を推進いたします。電力の自家発電消費(クリーンエネルギー)を検討し、「脱・減炭素社会」の実現を目指します。
3, 4, 5, 8, 10	生きがい・働きがい	業務別・階層別の研修体系を整備し、年齢・性別を問わず多様な人材が輝ける機会と場所を提供します。社員一人ひとりの生きがいと働きがいを尊重して参ります。
11, 13, 17	CSRの実現	地域活動への積極的参加を通じ、地域住民との関係を深めます。BCP策定や事業で得た知恵と技術を活かすことで、地域住民とともに「住み続けられるまちづくり」に努めて参ります。

当社においては以上の5つのテーマを目標として設定致しました。地域や社会全体へと貢献していくために2030年頃まで、設定した目標を推進していきます。

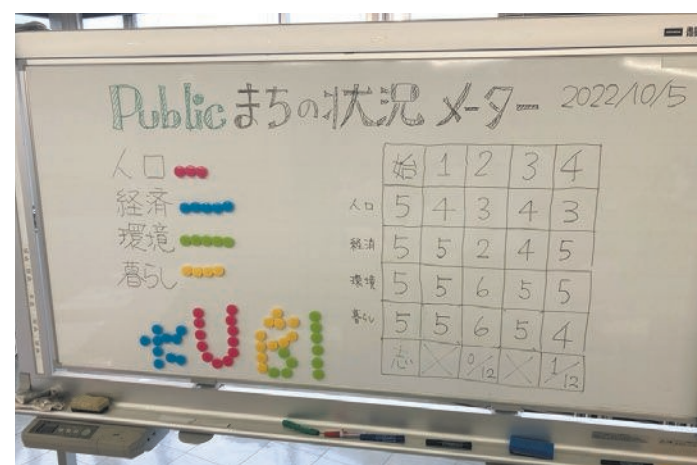
2030年頃、「PUBLIC WAY」と「SDGs」を実践し、豊かな未来を創出する。

SDGsの普及・実践



SDGsワークショップ

SDGsについての知識を高めるため、外部よりファシリテーターをお招きしワークショップを開催しました。カードゲームを用いたことで、普段、話す機会の少ない部署や役職の垣根を超えて話し合い、助け合い、楽しく学び新たな気づきも生まれました。参加者からは「家族や周囲の人たちにも話してSDGsのことをもっと広げていきたい」とかエコバックを持ち歩くようにする、認証マークのある商品を選ぶように心掛けたいや会社として自治体や周りの小学校などへも発信していきたいなどの意見もでした。



SDGsファシリテーター認定書

このたび、「SDGs de 地方創生」の「ファシリテーター認定」を受けました。

ワークショップ開催を希望される方は弊社までお問合せください。



大学生向けインターンシップ

夏休みに大学生向けのインターンシップを開催しております。会社説明と工場見学のほかに、廃棄物業界の現状や必要性、またSDGsのワークショップを通して学んでもらいながらその中で弊社の役割と取組みについてを知ってもらう機会になりました。学生さんからも環境についてなど積極的に質問いただきました。



工場見学(行政)

坂出市けんこう課の職員様と坂出市食生活改善推進協議会の会員様14名が三豊市にあります三豊オーガニックステーションの見学にいらっしやいました。近年問題になっております食品ロス。廃棄された食品をリサイクルする技術を持つ弊社工場に興味を持っていただき今回の見学となりました。食品選別や堆肥化施設などリサイクル工程を見学された後の質疑応答では選別されたプラスチックの袋や容器の行先や1日の受入量、脱臭装置についてなどたくさん質問をいただきました。



エコステーション



スーパーマーケットやショッピングモールの駐車場の一部をお借りして市民の皆さまがいつでも利用できる資源回収ボックスを設置しています。空缶、ダンボール、雑誌や新聞を分別して持ってきてもらうことで再資源化でき一般の方たちにもリサイクルに協力いただいています。また、ダンボールや雑誌持ってきていただければ、ポイントで還元し溜まれば商品券と交換できるシステムを導入しお客様にも喜んでいただいています。1人の100歩より100人の1歩。ひとりでも多くの方にリサイクルに参加して頂けるようにしていきたいです。



「脱・減炭素」～地域・お客様～

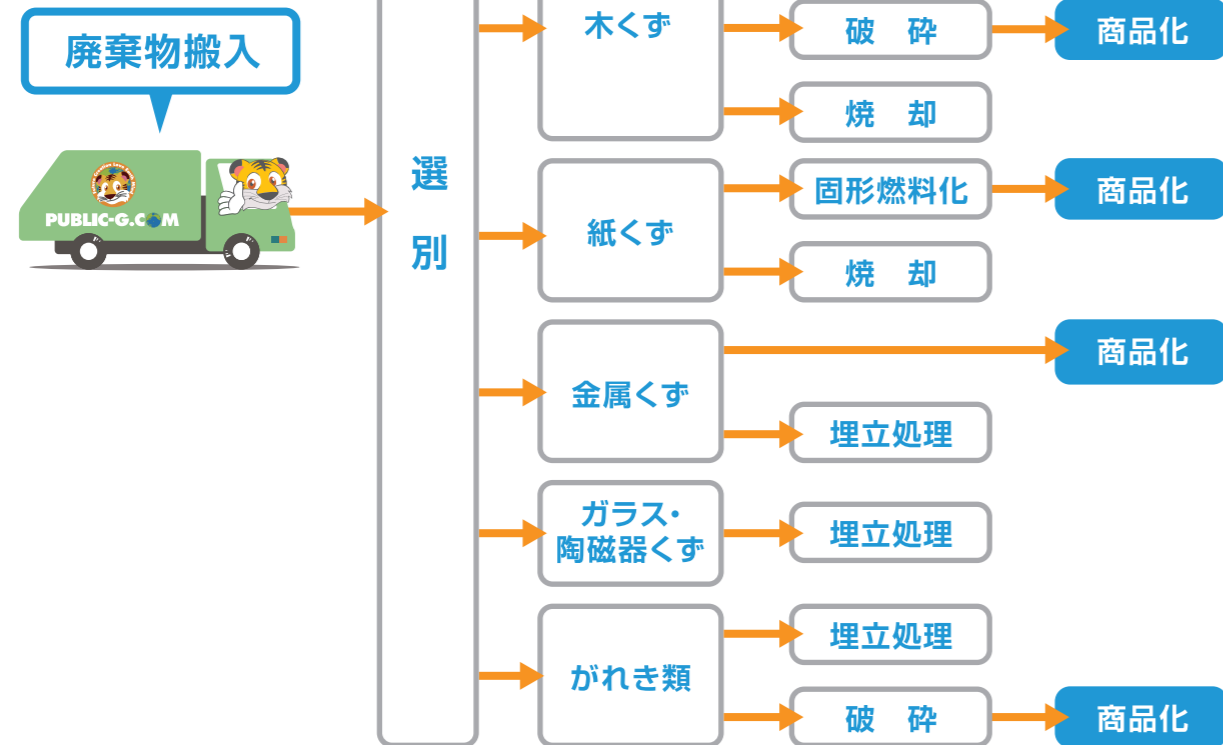
リサイクル処理



排出事業者様からお預かりした廃棄物を選別し、少しでも多くリサイクルにできるよう日々努力しております。廃プラスチック類や紙くずは固形燃料に、木くずや草木は木質チップや再生木材の原料に、生ごみなど食品残渣は肥料にと総合エネルギー効率の向上と化石燃料削減によるCO2削減にて「脱・減炭素」を支援しております。ここでは、弊社のリサイクル処理をご紹介します。

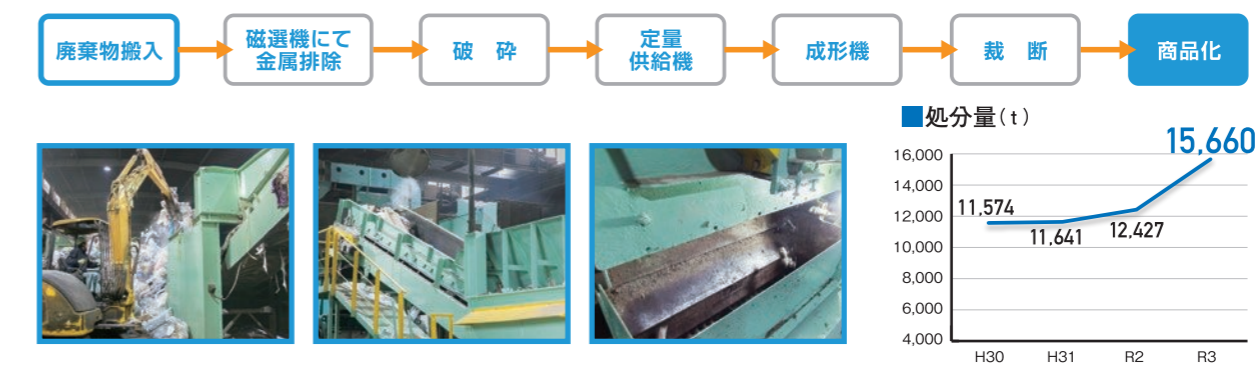
《選別》

リサイクル処理を行うにも適正処理を行うにもこれらの混合廃棄物を品目別、または処理別に選別する必要があります。



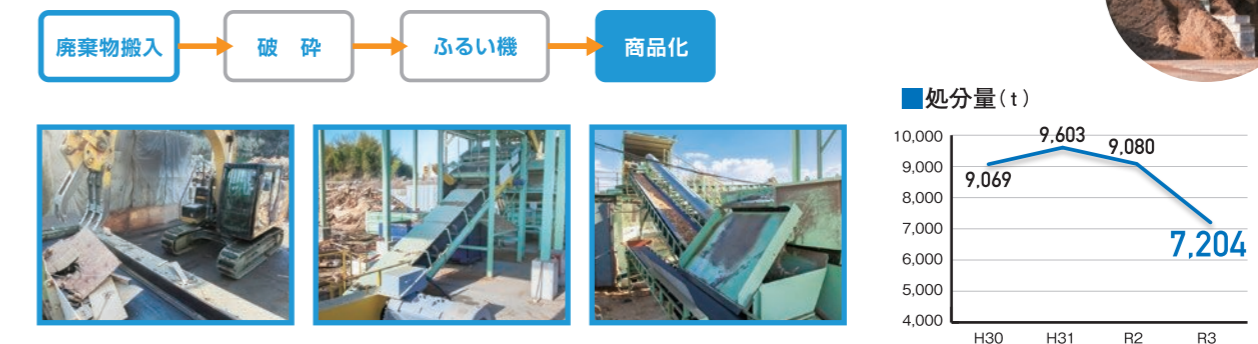
《固形燃料化》

廃プラスチック類や紙くずなどの石油製品や木くずなど燃焼性に優れた廃棄物を主原料として固形燃料を製造しリサイクルしています。固形燃料は石炭やコークス等の化石燃料に変わる代替燃料として、資源の有効利用と低炭素社会の実現へ貢献します。



《木くず》

家屋の解体工事や街路樹の剪定、台風などの災害による倒木で発生する廃棄物の木くずを破砕処理します。最後は木材チップとなり、大きさごとに選別され、紙、燃料、建築資材などにリサイクルされます。



《不燃ごみ》

スーパーやコンビニから集めてきた不燃ごみをペットボトル、スチール缶、アルミ缶、びん、その他プラスチック類に選別し、リサイクルします。不燃ごみを分別することで資源化できる施設です。



《ハッピー》

収集してきたハッピーストレッチロールを熱により減容処理後成型しインゴットとしてハッピーストレッチロールの原料としてリサイクルされます。



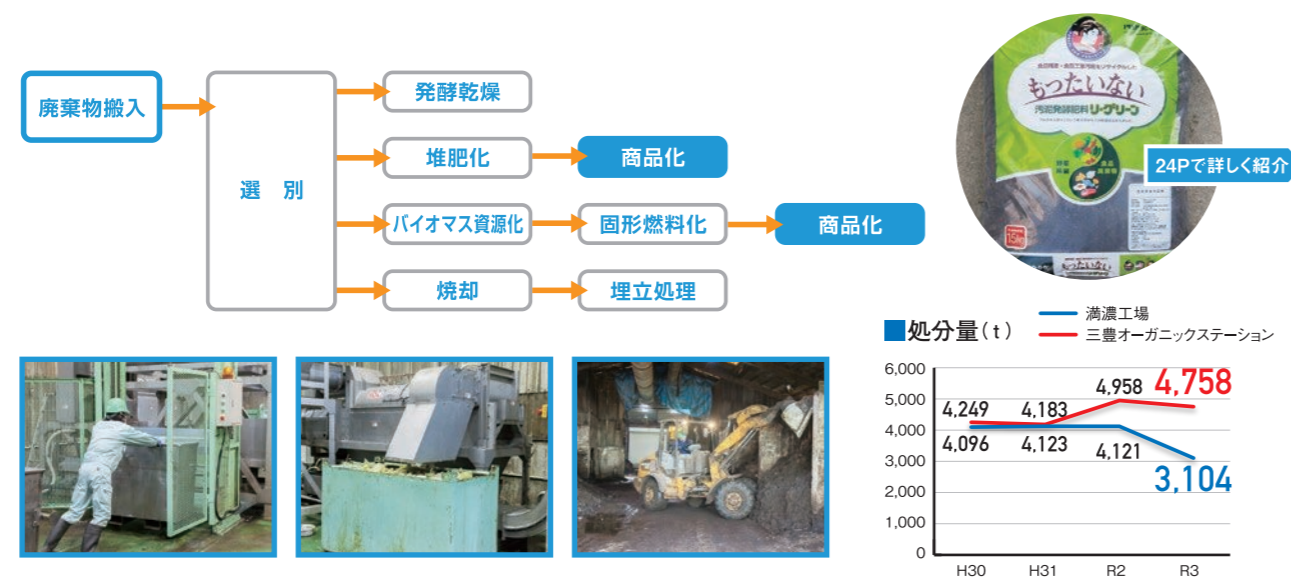


「脱・減炭素」～地域・お客様～

食品リサイクル



弊社では、三豊オーガニックステーションに自動選別機を導入し、廃棄製品の投入から選別までの作業を自動化することができました。また、堆肥化施設が敷地内に併設されているため、運搬効率もあがり処理能力の向上と作業負担の軽減などによる作業環境の改善にもつながりました。最近では食品ロスについても大きな問題になっており、多くの企業様から取引条件として食品リサイクル施設が整備されていることが条件として上がることも多くなりました。大手スーパーマーケットやコンビニチェーン様などは独自のルートを構築し、食品リサイクルループを完成させている企業様もございます。弊社としても、四国では食品循環資源リサイクル(リサイクル・ループ)のパイオニアとして、より一層リサイクル業務に取り組んで参りたいと思います。



《法令遵守》

弊社の食品リサイクル工場では、搬入された廃棄製品を自動選別機にて食品残渣と容器類に選別し、選別された食品残渣は発酵乾燥され堆肥化工場に、容器類は固形燃料化処理等適正に処分しております。また、廃棄物処理業者による廃棄食品の横流し事件がありました。私ども工場ではこのような事を起こさないよう24時間カメラにて現場を監視しております。



《もったいない 汚泥発酵肥料 リ・グリーン》

食品循環資源を有効活用したリサイクル肥料です。土壌の改善をし、野菜や果物の成長を促します。袋詰め製品、バラの配達承ります。

《特徴》	《成分》	《施用量》
動植物性残渣・食品工業汚泥・パーク粉殻を利用したミネラル豊富な肥料です。また通気性・保水性・保肥力に富み、地力の増進及び土壌改良効果を発揮します。特に葉物野菜のキャベツやレタス等に最適です。当社ファームで栽培しているみかんも好評を頂いております。	■窒素全量 (%) 1.7 ■リン酸全量 (%) 0.8 ■加里全量 (%) 0.9 ■炭素窒素比 (C/N比) 9 ■水分 (%) 41.8 ■有機物含有量 (%) 51.0	1袋:40L/15kg入り ■ハウス温室 (3.3㎡当たり) 3/4袋 ■露地作物・家庭菜園 (3.3㎡当たり) 1袋 ■鉢物 2.0% (鉢容積当たり)



《パブリック・オーガニックファーム》

パブリック・オーガニックファームは、「もったいない 汚泥発酵肥料 リ・グリーン」の試験農場として2009年よりスタートしました。広さは約7000㎡あり、四季を通じて、様々な野菜や花卉・果樹を栽培しています。収穫された野菜などは弊社指定管理の「萩の湯」などで地元の皆様に提供させていただいております。



いろいろな野菜や果物、植物を栽培しております。

<h3>春</h3> <ul style="list-style-type: none"> レタス ● ネギ ● にんにく ● たまねぎ ● チューリップ エンドウマメ ● そらまめ ● タラの芽 など 	<h3>夏</h3> <ul style="list-style-type: none"> なすび ● どうもろこし ● ゴーヤ ● きゅうり ごぼう など
<h3>秋</h3> <ul style="list-style-type: none"> さといも ● さつまいも ● かぼちゃ ● なすび サルビア など 	<h3>冬</h3> <ul style="list-style-type: none"> みかん ● ほくさい ● だいこん ● きゃべつ ● かぶ しゅんぎく ● ほうれんそう など

「脱・減炭素」～会社として～



電動重機の導入

バッテリー式(電動)重機を導入する事で、化石燃料の使用削減および排気ガスの問題がクリアできます。現在は四国中央事業所のフォークリフトのみですが今後各事業所への導入を計画しております。



バッテリー式(電動)フォークリフト



導入予定のバッテリー式(電動)ユンボ

ハイブリッド車導入

塵芥車のハイブリッド車を導入しました。こちらも化石燃料の使用削減および排気ガスの問題に効果が期待できます。また、営業車輛については、ほとんどがハイブリッド車を使用しております。



ハイブリッド車輛(営業車)



ハイブリッド車輛(塵芥車)

環境省 中小企業の脱炭素経営促進モデル事業

環境省の中小企業の温室効果ガス削減目標に向けた脱炭素経営促進モデル事業の採択を受け、環境省の支援の下、脱炭素経営の取組を推進しております。SDGs宣言とともに、会社をあげて取り組んで参ります。



生きがい・働きがい



マナー研修

社外よりマナー講師を招き、マナー研修を実施しました。毎日お客様の元へお伺いするドライバーや持込のお客様の受入れ対応するオペレーター、受付や電話対応する女性事務と様々な部署から集まってマナーの基本を学び直しました。



マナー研修の様子

一般事業主行動計画

社員がその能力を発揮し、仕事と生活の調和を図り働きやすい雇用環境整備を行うために行動計画を策定しました。次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画では地域の子供のSDGs実現に向けた環境教育の対策として、まずは社員のSDGsへの認識を高め、自治体様や行政関係との連携をとりながら地元小学校への環境教育に取り組んで参ります。また、令和4年4月より義務化されました女性活躍推進法に基づく行動計画では2025年3月までに管理職に占める女性の割合を15%以上にする行動計画を策定し、女性リーダー育成のための研修や教育などに取り組んでおります。

ハラスメント防止

管理職を中心に参加希望者を募り、社労士の先生をお招きして、2回にわたってハラスメントについて講演していただきました。パワハラ、セクハラ、マタハラ様々なハラスメントの事例ハラスメントが発生した時の対応など学びました。また、メンタルヘルスマネジメント検定の取得や外部での講習などにも参加し各々のハラスメントに対する意識を高め、ハラスメントのない企業を目指して参ります。



ハラスメントについての講習の様子

自衛隊退職者のインターンシップ受入

自衛隊退職予定者の方を対象に会社説明と職場体験を毎年実施させて頂いております。その中より毎年数名の方が弊社への就職を希望され、現在も3名の方が現場で活躍されております。



地域プロスポーツ協賛

地域活性化支援の1つとして地域プロスポーツチームへの協賛活動も行っております。チームの地域清掃活動に協力させてもらったり、福利厚生として社員に観戦チケットなどを配布させてもらっています。



CSRの実現



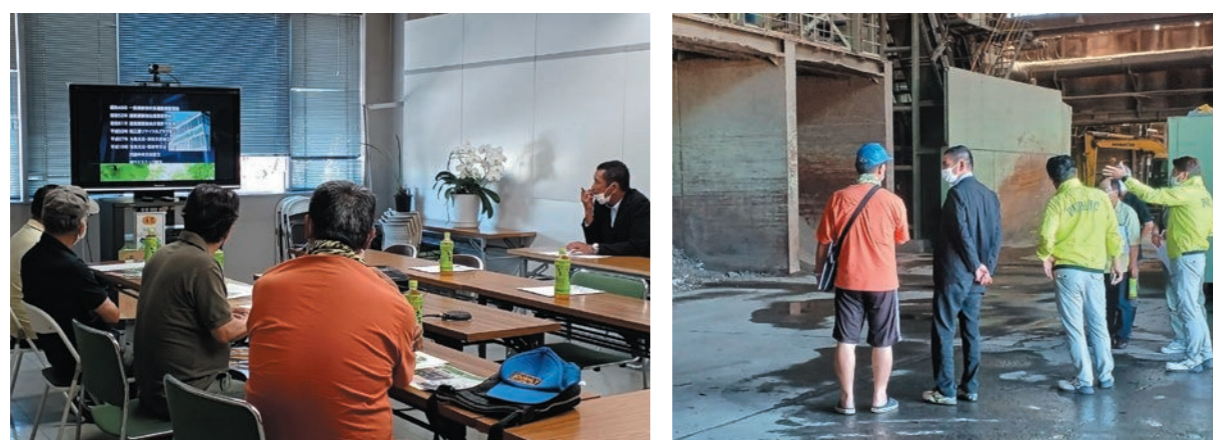
地域清掃

廃棄物処理業は地元住民の方たちのご理解とご協力がなければ成り立ちません。各所に拠点のある弊社では、各々の自治会様の地域清掃に参加させていただいております。田植え前の溝さらいやお祭り前の草刈りなど地元の方と一緒に作業させて頂いております。



工場見学と事業説明／地元自治会

地元自治会への事業説明と工場見学を開催しました。臭気や騒音、粉じんや水質について当然ご心配されます。弊社の取り組みや対策を説明し、ご理解いただいた上で見学してもらいました。



森林整備活動

香川県の森林課と香川県西部森林組合の御指導の下、山本町にある処分場周辺の森林整備活動を行いました。枯木や、ヒノキの生育を邪魔している竹などをノギリにて間伐し決められた場所に移動させまとめて保管します。今年で2回目となりましたが、子供たちの未来のためにいま、私たちにできることは森林を守り活性化させてあげることです。この活動で少しでも環境負荷の低減につながればと考えています。



お遍路道清掃

香川県産業廃棄物協会の呼びかけにより、仁尾町にある山間部の不法投棄されたごみと詫間町の河川に廃棄されたごみの清掃活動に参加させて頂きました。山間部では斜面に捨てられたごみを集め、最後はユニックで吊り上げる作業を繰り返し行います。河川ではゴミを袋に集めてコンテナで回収する作業を行いました。不法投棄がなかなか減りませんが、地球環境のためにも適正な処分ができるよう努力して参ります。



チャンスコール(クレーム)とその対応

パブリック・グループにお寄せ頂いたクレーム(苦情)を、私達は成長のきっかけとなるチャンスコールと捉えて、前向きに対処させて頂いております。ただ問題を解決するだけでなく、よりお客様にご満足いただけるよう皆様のご意見、ご指導をこれからもよろしくお願い申し上げます。



ショッピングモールに設置したエコステーション(資源回収ボックス)のお客様より、作業員の対応や態度についてご指摘を受けました。

対応!



自分たちの中での常識とお客様の求めるサービスの質の間にあるギャップが招いたものでした。お客様の求めるものに近づけるために、マナー講師をお招きし研修を実施し、接客対応を1から学び直しました。またイベントを開催し、お客様にアンケートを協力していただき、頂いた意見を元に改善点を話し合い、より一層サービス向上できるようにしました。

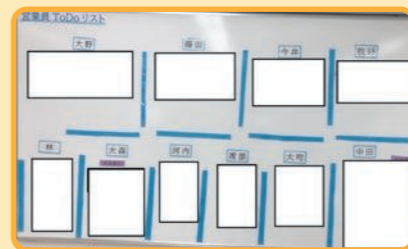


お客様から依頼のあった案件について連絡が遅れてしまい、ご迷惑をおかけしました。

対応!



すぐにお客様に連絡するつもりが、タイミングが悪くその時にお客様と連絡がつかず後回しにした結果、埋もれてしまい、数日後にお客様からのご指摘により気付くことになりました。数件の案件を同時に抱えている以上、漏れが発生する可能性は誰にもあります。そこでホワイトボードにて“営業員ToDoリスト”を作成し見える化する事で、一人で抱えるのではなく情報を共有し助け合える体制を作りました。



PUBLIC WAY 2022-23 社会正義への道

編集後記

このたびは、「PUBLIC WAY 2022-23」をご覧いただき誠にありがとうございます。また、発行にあたりご協力いただきました皆さまにも心から感謝申し上げます。

今年の4月から8月にかけてショッピングモールにある資源回収施設におきまして、数回に渡りお客様よりクレームを頂きました。対応した従業員の態度が威圧的であったり、口調がきついなどといったよく似た内容で何度も頂き、社内での教育を行い、何度も何度も繰り返し対策も練ったのですがクレームは無くなりませんでした。一人ひとりの意識の問題もあるのかもしれませんが、まだまだ弊社のお客様に対するサービスのレベルは一定のレベルに達していないのだと痛感しました。利用して下さるお客様はもちろん施設を設置させて頂いている店舗様にも大変ご迷惑をおかけしました。そんな中、同施設に対して感謝の気持ちを伝えて下さるお客様がいらっしゃいました。クレーム続きで沈み気味だったのですが、そういった意見も頂けることは非常に嬉しく活力になりました。

「ありがとう」という感謝を表す言葉があります。この「ありがとう」の反対語をみなさんをご存知でしょうか。新人研修などで聞いてみると「すみません」とか「どういたしまして」など返ってきます。何が正解というものではないのですが、ある方から教わった回答は「当たり前」でした。「ありがとう」は漢字で「有難う」と書きます。「有難し」という意味で有ることが難しい、すなわち「奇跡」ということです。「奇跡」の反対は「当たり前」になります。私たちは日常生活を当たり前で過ごし、それを日々繰り返しています。毎日朝起きて食事をし、通勤通学し、家族や友人、会社の同僚に会って話す。何気ない日常生活ですが、その1つ1つが当たり前の出来事ではなく、またその中でもいろいろな方にお世話になっているはず。そんな人たちにも感謝できていますか。「当たり前」と思うからこそ感謝の気持ちが薄れてしまうのではないのでしょうか。今回のように感謝の気持ちで救われることもあります。失って気付く「当たり前」の「有難さ」もあります。私も周りのすべてのみなさんと何不自由なく生活できる自分の身体にも日頃より感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

本書の記事や内容につきましてご意見、ご感想などございましたら、同封しておりますアンケート用紙に御記載頂ければ幸いです。皆さまからご意見をこれからの「PUBLIC WAY」の作成に活かしより良いものを作っていくと存じます。

今後ともパブリックグループともどもご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社パブリック PUBLIC WAY 編集委員会

2022年12月1日

本報告書の作成について

本報告書はFSC®認証材および管理原材料から作られた紙と、VOC(揮発性有機化合物)を1%未満に抑えたノンVOCインキを使った環境配慮型印刷物です。また、印刷工程で廃液の出ない「水なし印刷」を採用し、製造のために排出されたCO₂はカーボン・オフセット・ジャパンを通じてオフセットされています。

できるだけ環境に配慮した作成を試みており、ここではこれらの解説を致します。

本報告書は環境に配慮した印刷で作成しています。



水なし印刷

水なし印刷は、印刷時の現像液や印刷時の湿し水を使わず、廃液の処理や湿し水の製造にかかるCO₂もゼロになる環境にやさしい印刷方式。その水なし印刷による印刷物であることを認証し、製造過程で排出したCO₂を埋め合わせ(オフセット)、印刷物1部あたりのオフセット量を明記しました。



ノンVOCインキ

光化学スモッグなど大気汚染の原因や人体に有害なVOC(揮発性有機化合物)を植物油などにおきかえ、VOC含有量を1%未満に抑えたインキを使用していることを示すマークです。



FSC®森林認証紙

世界的な基準のもとで適切に森林管理された認証林や再生資源、およびその他管理原材料からつくられた印刷物であることを示すマークです。